

授業改善(英語科)

■ 授業改善の方針

学習指導要領に則り、英語の4技能の総合的な育成を図るため、生徒の理解度や興味・関心を常に把握しながら、教材の選定と活動内容の決定を行った。英語の文章を英語で理解させるため、日本語を介さない新出単語の導入方法や、大まかな内容把握から詳細説明に至るまでの「英語による」授業展開の仕方を研究し、各学年において、どのクラスでも同一の学習活動を提供できるよう、担当者内で綿密な打ち合わせを行った。

英語の授業は基本的に英語で行い、生徒の英語による言語活動が中心となるように、使用するハンドアウトを最大限に工夫し、授業展開を十分に検討した上で、授業に臨んだ。

SGH事業の取り組みの一つである「グローバル人材の育成を意識した授業改善」という点では、コミュニケーション能力や論理的思考力、表現力の育成のため、以下に述べるような活動を授業の中に組み込み、また、ICT機器の活用についても研究を進めた。

■ 表現力・プレゼンカの育成のために

日常的に、授業のウォームアップ活動としてのスモールトークや、ペアワーク・グループワークを通して、生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る姿勢を養っているが、とりわけ以下のような活動を授業の中に意識的に取り入れていくことにより、生徒の表現力・プレゼンカのさらなる向上に努めた。

① スピーチ

What is your favorite season? (一番好きな季節は?) というテーマを設定し、3分間スピーチを行った。挨拶・自己紹介・トピックの導入から結論に至るまでの基本的なスピーチの型を示し、自分の主張をサポートするための例の示し方や、スピーチを論理的に展開するために必要な「つなぎの言葉」を導入し、原稿作成の段階から詳細に指導した。例を2つ以上示すこと、つなぎの言葉を4つ以上入れること、全体として120語以上の原稿に仕上げること、といった条件を設けることで、より説得力があり、深みのある内容のスピーチにすることができた。指導に当たっては、ALTの協力を得、繰り返し添削指導を行った。

実際のスピーチ発表の際には、声の大きさやアイコンタクトの大切さ、ジェスチャーの有効活用など、メッセージを効果的に伝えるための手法についても指導した。

② プレゼンテーション

自分が関心を持った世界の国や名所を選び、その地域についての情報(位置、人口、使用言語など)をインターネットや書物から得、その魅力について3分程度の英語によるプレゼンテーションを行う、という活動を行った。スピーチ同様に、基本的なプレゼンテーションの型を提示し、プレゼンを組み立てる際に必要となる表現を導入し、さらに、より聴衆の興味・関心をひくための手法について指導した。スピーチとは違い、視覚的にも聴衆に訴えかけるため、コンピュータ室を利用してパワーポイントによるプレゼン制作を進めた。

また、小児がん患者に対する支援団体である Alex' s Lemonade Stand Foundation について学んだ後、自分がその団体の活動についてプレゼンするという設定を設け、パフォーマンステストとして1分間のプレゼンテーションを行い、生徒の表現力の評価の一つとした。

③ ディベート

Using cell phones in school should be allowed. (学校での携帯電話の使用は許可されるべき) というテーマのもと、賛成・反対の立場に立ち、その主張をサポートする理由と、予想される反論に対する考えを用意し、グループ単位でディベート活動を行った。

スピーチやプレゼンテーションと比較すると、ややなじみの薄い言語活動であるため、まずはディベートの流れやルール、またジャッジの役割などを十分に理解させることから始めた。グループ活動においては、役割を適宜交代させ、ジャッジ、賛成派、反対派、のすべての役割を経験させた。ディベートをゲームとして位置づけ、最後は代表グループによる決勝戦を行った。

④ ディスカッション

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの占領下にあったポーランドにおいて、ユダヤ人の救出活動を行ったイレーナ・センドラーについての話を読み、そのセクションごとに関連するテーマを投げかけ、グループディスカッションを行った。司会者の役割やディスカッションの流れを最初に示し、発言を求めたり意見を表明する時のフレーズを導入した後、3～4名のグループに分けて活動させた。

また、ALTの協力の下、「fast food と slow food のどちらを好むか」というテーマについて同様のディスカッションを行ったが、ここでは、主張を裏付けるデータの収集を求め、「最低30秒以上は発言し、また2回以上は発言すること」や「他者の考えに対し、質問をすること」といった条件を加えて、テーマをより深めさせ、レベルの高いグループディスカッションとなるようにした。

■ ICT 機器の活用

より学習効果の高い活動を目指して、グループ内での本文の口頭要約活動や、クラス全体での音読活動にタブレット端末を活用した。従来の活動では得られない視覚的効果が得られることや、本文やキーワードをより効率よく提示できることで1時間の授業内容をより充実させることができるなど、多くの利点を感じた。

ALT主導の授業においては、ほぼ毎時間プロジェクターを利用し、本文やキーワード、活動の目標や流れなどを視覚的に提示することで、生徒の活動をよりスムーズに進め、学習効果を高めることができた。

ICT機器の活用に関しては、試行錯誤の段階であり、定期的な活用にまでは至っていない。今後もその効果的な活用法について、研究を続けていく。

■ 今後に向けて

英語による表現力の育成のために上記のような様々な取り組みを行った。どの活動においても、発表本番まで原稿を必死になって暗記しようとする姿や、ディベートにおける Judge (審判) やディスカッションにおける Moderator (司会者) といった重要な役割を責任を持って果たそうとする姿が多くの生徒に見られ、英語学習に対する誠実な姿勢を感じ取ることができた。また、自分の考えを筋道を立てて論理的に述べるためには、どのような表現をどのような流れの中で使用すればいいのかを学び、そしてそれを実際の活動の中で実践していくことにより、生徒のコミュニケーション能力や論理的思考力、さらには表現力を高めることができた。

今後も、生徒の英語による言語活動を中心とした授業を心がけ、表現力・プレゼン力のさらなる伸長が図れるような活動内容を研究し、実践していきたい。

研究授業(英語科)

教材名: MAINSTREAM I (増進堂) Lesson 5 Subjects I'm Taking

日時: 平成27年7月16日(木) 第3限

授業者: 石田 智歌 対象者: 1年7組(少人数クラス)

■ 授業の概要

- ・ 相手の意見を的確に理解して、その上で自分の考えを適切に伝えるための表現や方法についての知識を身に付け、それを活用して英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的とした。
- ・ 3人1グループで「学校で生徒は携帯電話の使用を制限されるべきである」というテーマを設定して、ディベートを行った。同じトピックでグループを変え、賛成派と反対派、審判の役割を変えながら試合をした。その後、それぞれのチームで勝ち抜いた代表がディベートを行い、残りの生徒がそれをジャッジした。

■ 授業の様子



ICTを使用することにより、本日の流れや目標を確認できた。また、時間制限も大きく示すことにより、制限時間を意識させた。



生徒は学んだ表現を活用して、積極的にグループでの意見交換ができた。



審判の生徒はメモを取りながらディベートを聞き、どちらが勝者かを伝えた。その際、必ず勝敗を決めた理由を明確にした。



最後に代表グループによる、グループ対グループでのディベートを実施した。その後、本時の目標の達成度を全員で振り返ることができた。

研究授業(英語科)

教材名: Genius English Communication I (大修館) Lesson 5 Alex's Lemonade Stand

日時: 平成27年11月28日(水) 第1限

授業者: 金森 香織 対象者: 1年6組

■ 授業の概要

- ・ がんに立ち向かった少年の実話を題材にした教材を時系列に注意して読むことで、物語の概要をつかみ、その読み取った概要を、キーワードを使って口頭にて英語で伝え合った。また支援の必要な人々のためを支えるために、自分は何ができるかを考え、ペアやグループにて英語で意見交流を行った。

■ SGHの観点から



確かな語学力: 口頭要約では、聞き手に伝わりやすいように、語句や表現を言い換えて要約することの大切さを伝えることで、自分の表現で伝えようとする姿が多く見られた。



コミュニケーション能力の育成: 必然性のある言語活動を仕組み、考えを適切に伝えるための表現と方法を指導することで、生き生きとコミュニケーションする生徒の姿につながった。



ICTの活用: タブレット端末を用いて、音読練習や写真・資料の提示を行うことで、視覚的に考えを膨らませたり、学習内容のさらなる定着の一助となった。

■ 生徒の感想

- ・ コミュニケーションするためのいろんな表現を教えてくれるので、とっさに英語を話すときにスムーズに英語が出るようになりました。
- ・ 前は英語が苦手だったし、英語で話すのは嫌だなあと思っていたけど、授業では話す機会がたくさんあって、話しているうちに、英語で会話するのが楽しくなってきました。英語が前より話せるようになって嬉しいです。英語が好きになりました。
- ・ ICTを使うと、視覚からも英語を覚えられて、分かりやすいです。特に、音読練習は、楽しくてやる気になります。
- ・ ICTを使った授業は、分かりやすく、英語を読む力がついたと思います。